



オ ラ メ ヒ コ

Hola! México

話題のメキシコがわかるレポート

【第4回】

外国企業の進出ラッシュに沸くメキシコ

中南米を代表する工業国であるメキシコは、自動車や電子機器などの生産が盛んです。現在、自動車をはじめ、外国メーカーによるメキシコ進出が加速しており、以前にも増して、投資先としてのメキシコの注目度が高まっています。今回は、メキシコの製造業についての情報をお届けします。



相次ぐ外国企業の進出

巨大な消費市場である米国と成長著しい中南米の間に位置する地理的優位性と安価で豊富な労働力から、メキシコは製造や輸出の拠点として多くの外国企業から目向けられています。例えば、国際協力銀行のアンケート調査*によると、日本企業が中期的に有望と考える事業展開国として、メキシコは7位にランクインし、昨年度から順位をあげるなど、日本企業の間で今、投資先としてメキシコへの関心が高まっています。

中期的(今後3年程度)に有望な事業展開国

2012年	2011年	変化	国名
1	1	→	中国
2	2	→	インド
3	5	↑	インドネシア
4	3	↓	タイ
5	4	↓	ベトナム
6	5	↓	ブラジル
7	12	↑	メキシコ
8	7	↓	ロシア
9	8	↓	米国
10	19	↑	ミャンマー

* 2012年度海外直接投資アンケート調査(2012年12月発表)
日本の製造業企業の海外事業展開の現況や課題、今後の展望を把握する目的で、実施されている。

出所：国際協力銀行のデータをもとにHSBC投信が作成

実際のところ、メキシコでは自動車産業を中心に外国企業の進出ラッシュが続いています。日本企業ではマツダが2014年の工場稼働予定で初進出、約50年前に進出し、メキシコでは生産台数トップの日産自動車も工場を拡張、さらにゼネラル・モーターズ、フォード、フォルクス・ワーゲンなどの欧米企業も設備投資を活発化させています。さらにこれらの生産活動に対応するため、自動車部品や鋼板などの自動車関連企業にもメキシコ進出の動きが広がっており、工場の新設や生産拡張を決定しています。

最近の日系自動車メーカーによる投資例

発表時期	企業名	内容
2011年6月	マツダ	新工場建設。 生産能力は年間14万台。(2013年1月に能力増強を発表、当初計画の14万台から23万台へ)
2012年1月	日産自動車	新工場建設に約20億米ドル投資。 新工場の生産能力は17.5万台。
2013年5月	ホンダ	年間生産能力約70万台の四輪車向けトランスミッション工場の建設。

出所：各社ホームページの資料をもとにHSBC投信が作成

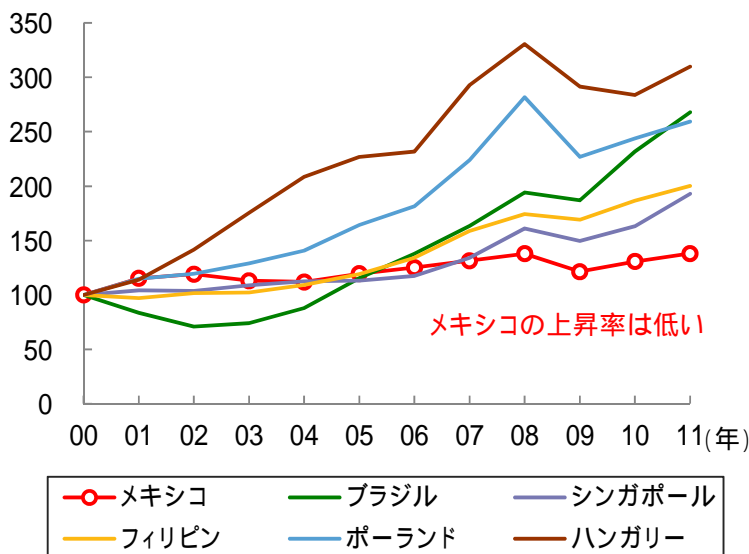


メキシコ製造業が持つ競争力

製造・輸出拠点としてのメキシコの優位性は、「地の利」です。メキシコは消費大国である米国とは3,000km以上にわたり、国境を接し、地続きです。例えば、中国などアジアの国が製品を遠く離れた米国へ輸出する場合、相当の輸送コストがかかります。一方、メキシコは高速道路、鉄道で米国にアクセスできるため、輸送コストは抑えられ、スピーディーに出荷できます。さらに太平洋と大西洋、2つの海に接し、東西どちらにも港があるため海運の便も良く、効率的に原材料の輸入や製品の出荷が可能です。

こうした地の利に加え、労働コストの安さもメキシコの競争力を支えている要因です。ハンガリーやブラジルなどの新興国で労働コストが上昇する中、メキシコは他の国に比べコスト上昇率が低く安定しています。2000年代は中国の台頭で製造拠点としての競争力を失っていたメキシコですが、近年の中国の賃金高騰を受け、再び競争力を取り戻しつつあります。

主な新興国の労働コストの推移
(2000年を100として指数化、2000年～2011年)



時間当たりの労働コスト(米ドル換算)
出所: 米国労働省のデータをもとにHSBC投信が作成



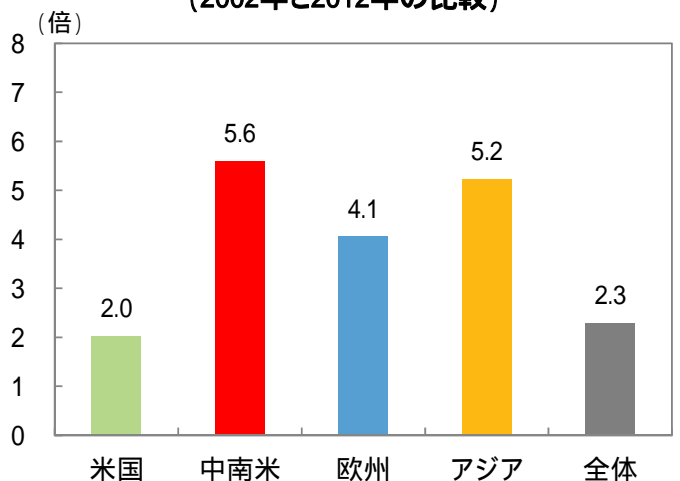
世界有数のFTA先進国

各国企業の進出が相次ぐ背景には、メキシコが積極的に進めてきた自由貿易政策があります。現在、メキシコは、1994年に米国、カナダ、メキシコの3ヶ国で結ばれたNAFTA(北米自由貿易協定)をはじめ、世界44ヶ国とFTA*(自由貿易協定)を結んでいます。これにより、メキシコで生産された製品はFTAを結んだ国の間では、他国よりも低い関税率で輸出を行うことができるようになり、メキシコは製造や輸出の拠点として注目されています。

メキシコの最大の輸出先は米国であり、輸出全体の約8割と大きなシェアを占めますが、輸出先は多様化してきています。最近では、成長著しいアジアや中南米向けの輸出額が大きく伸びており、これらの地域の経済成長に伴う輸出拡大が今後も期待されます。

* 自由貿易協定(FTA)とは、特定の国や地域の間で、輸出入にかかる関税の撤廃・削減などを目的とする協定。

地域別輸出額の伸び率
(2002年と2012年の比較)



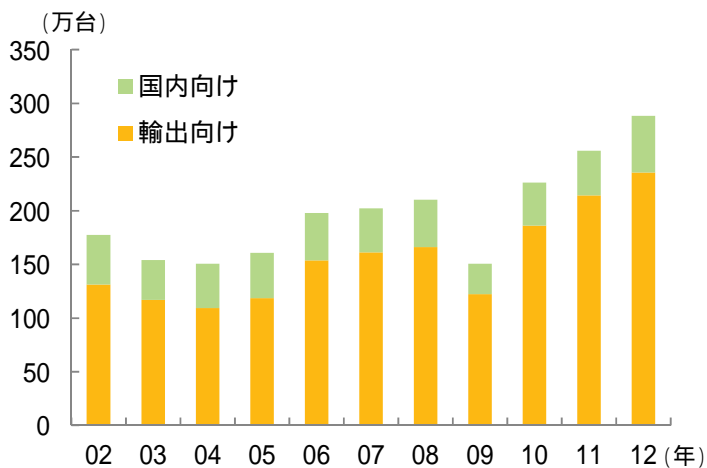
出所: メキシコ中央銀行のデータをもとにHSBC投信が作成



世界第5位の自動車輸出国

かつて、メキシコは石油など資源の輸出に依存していましたが、1980年以降、工業化が進展し、現在では、輸出全体の約8割が自動車や電子機器などの工業製品となっています。中でも最大の輸出品目である自動車は、2012年の生産台数と輸出台数はそろって、過去最高を記録しました。輸出台数(2011年)は、フランス、ドイツ、日本、韓国に次いで世界5位にランクされるなど、世界における自動車の生産・輸出拠点としての存在感が高まっています。

自動車生産台数の推移(2002年～2012年)



出所:ブルームバーグのデータをもとにHSBC投信が作成



政治経済の安定も投資を後押し

2012年12月に就任したペニャニエト大統領による構造改革は、順調に滑り出しています。大統領のリーダーシップのもと、野党を含む主要3政党との間で「メキシコのための協約」が結ばれ、改革に向けた政治的協調が図られるなど、政治面は安定しています。

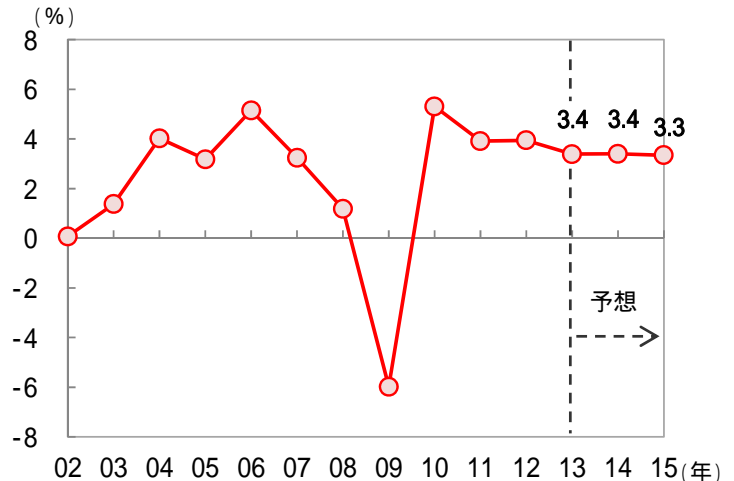
また、経済面においても、1980年代の累積債務問題と90年代の通貨危機、過去2度の経済危機を踏まえ、政府による規律ある財政運営が行われており、現在多くの

先進国が財政問題を抱える中、メキシコの財政は順調です。

1980年代や90年代には高インフレに悩まされた時期もありましたが、過去10年のインフレ率は概ね6%以下で推移、GDP成長率もリーマンショック後の2009年は大きなマイナスとなりましたが、今後は、3%台の安定的な経済成長が予想されています。こうした点からも外国企業がメキシコで設備投資するメリットは大きくなってきていると言えます。

有望な投資先として、世界の注目度が高まっているメキシコ。コスト競争力や世界中に張り巡らされたFTAネットワークなどの優位性から、海外からの投資が増加することが見込まれ、さらなる経済発展につながる事が期待されます。

実質GDP成長率の推移(2002年～2015年)



出所:IMF World Economic Outlook Database (April 2013)のデータをもとにHSBC投信が作成



元メキシコ駐在員が語るメキシコの「へえ～」

サッカーワールドカップとオリンピック

スポーツに関連して、メキシコはラテンアメリカ諸国の中で誇れることが2つあります。一つは、ラテンアメリカではメキシコだけが、1970年と86年の2度もサッカーのワールドカップを開催していることです。もう一つは、ラテンアメリカの中でメキシコが唯一オリンピックを1968年に開催しています。(尤も、ブラジルが近い将来にこの両方を開催することになっているので、唯一だと誇れるのは今のうちです。)



メキシコのサッカー、オリンピックと言えば・・・

メキシコで最もポピュラーなスポーツと云えばやはりサッカーです。2012年ロンドンオリンピックでメキシコの男子サッカーチームが準決勝で日本を、続く決勝戦ではブラジルを破り、金メダルを獲得したのはまだ記憶に新しいところです。もう一つ、メキシコのサッカー、オリンピックと来れば日本人には忘れられないのが、1968年メキシコオリンピックの3位決定戦で日本の男子サッカーが地元メキシコに勝ち、初めて銅メダルを獲得したことです。

他にメキシコで人気のあるスポーツは・・・

見るスポーツの一つは「ルチャリブレ」でしょうか。ルチャリブレとは即ちメキシコスタイルのプロレスのことで、彼の地では非常に高い人気を得ている格闘技であり、ある意味では大衆芸能です。アレナ・メヒコというリングがメキシコシティの下町にあり、ファンの間では「ルチャリブレの聖地」と呼ばれているようです。訪ねてみるとそれなりの場末感も漂う、雰囲気のある所です。その昔、日本のリングでも活躍したミルマスカラス(直訳すると“千のマスク”)はまさに「千の顔を持つ男」と呼ばれたメキシコ人の覆面レスラーでしたが、メキシコには伝統的に覆面レスラーが多く、人気もあります。メキシコを訪れる日本人観光客の中でも、熱狂的なプロレスファンはメキシコ土産にと本物の(=土産物屋で売られているような安物ではない)覆面マスクを探して買って帰られるようです。

ボラティリティが高いメキシコでのゴルフ?

さて日本人にはポピュラーなゴルフですが、メキシコのゴルフ人口は6万人に過ぎないと彼の地で聞いたことがあります。最近では2007年の世界女子ゴルファー・ランキング1位になったロレーナ・オチョアがメキシコ人プロゴルファーとして有名でしたが、メキシコではゴルフは限られた人たちのスポーツです。

2,300メートルの高地にあるメキシコシティでは、平地よりボールが飛ぶことが考慮されているのか、どのゴルフコースもとにかく距離が長く、某ゴルフ場ではグリーンまで打ち上げのロングホールでレギュラーティーから600ヤード、パー5のホールがありました。上手い人に言わせると、“ウッドは平地とあまり変わらないが、アイアンの場合ワン・クラブは違う”とのこと。空気抵抗が少ないため、確かにアイアン・ショットはきちんと芯に当たれば素人でも平地よりかなり(驚くほど!)飛びます。但し、チョロをすると平地と全く変わらないチョロなので、下手な素人には結局“ボラティリティが高いゴルフ”だったことを告白しておきます。



< 当資料に関する留意点 >

- ▶ 当資料は、H S B C 投信株式会社(以下、当社)が投資者の皆さまへの情報提供を目的として作成したものであり、特定の金融商品の売買を推奨・勧誘するものではありません。
- ▶ 当資料は信頼に足ると判断した情報に基づき作成していますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、データ等は過去の実績あるいは予想を示したものであり、将来の成果を示唆するものではありません。
- ▶ 当資料の記載内容等は作成時点のものであり、今後変更されることがあります。
- ▶ 当社は、当資料に含まれている情報について更新する義務を一切負いません。

< 投資信託に関する留意点 >

投資信託に係わるリスクについて

- 投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象としており、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価額が変動し損失が生じる可能性があります。従いまして、投資元本が保証されているものではありません。投資信託は、預金または保険契約ではなく、預金保険機構または保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入の投資信託は投資者保護基金の保護の対象ではありません。購入の申込みにあたりましては「投資信託説明書(交付目論見書)」および「契約締結前交付書面(目論見書補完書面等)」を販売会社からお受け取りの上、十分にその内容をご確認頂きご自身でご判断ください。

投資信託に係わる費用について

- 購入時に直接ご負担頂く費用・・・ 購入時手数料 上限3.675%(税込)
- 換金時に直接ご負担頂く費用・・・ 信託財産留保額 上限0.5%
- 投資信託の保有期間中に
間接的にご負担頂く費用…………… 運用管理費用(信託報酬) 上限年2.1%(税込)
- その他費用…………… 上記以外に保有期間等に応じてご負担頂く費用があります。
交付目論見書、「契約締結前交付書面(目論見書補完書面等)」等でご確認ください。

注: 上記に記載のリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。
費用の料率につきましては、H S B C 投信株式会社が運用するすべての投資信託のうち、
ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

H S B C 投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第308号
加入協会 一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会